

青少年の意識と行動に関する調査

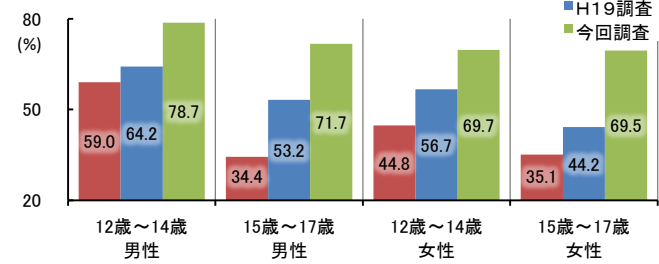
報告書 概要版

① 調査の概要

地域・対象	山梨県全域の12歳～30歳の男女 (平成24年4月1日現在の満年齢)	抽出方法	18歳～30歳：層化二段無作為抽出法 12歳～17歳：県内中学校、高等学校を無作為に抽出し、学校ごとに在校生を無作為に抽出
標本数	12歳～17歳(1,000人)、18歳～30歳(2,000人)の3,000人	回収結果	回収数 1,818 (回収率 60.6%)
調査期間	平成24年10月22日～同年11月9日		

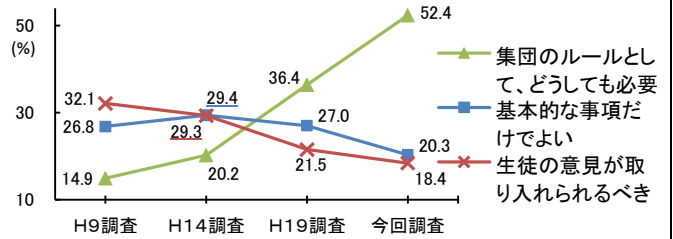
② 学校に関する事項

I 先生は、あなたのことをわかってきているか(理解意向)



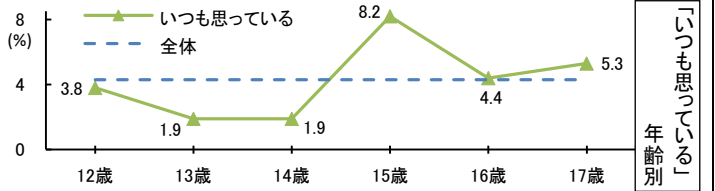
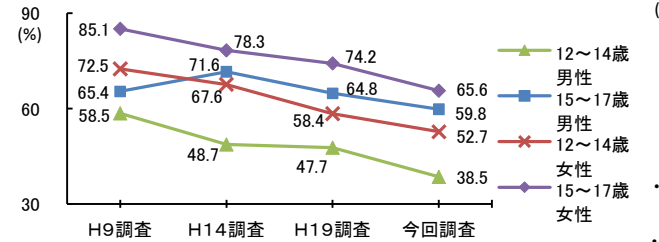
・男女年齢層別に過去調査と比較すると、「思う」「どちらかといえば思う」の「理解意向」が高くなっている。

II 学校の「決まり」や「規則」についてどう思うか



・過去調査と比較すると、「集団のルールとして、どうしても必要なのである」が増加し、「基本的な事項だけでよい」「生徒の意見が取り入れられるべき」は減少している。

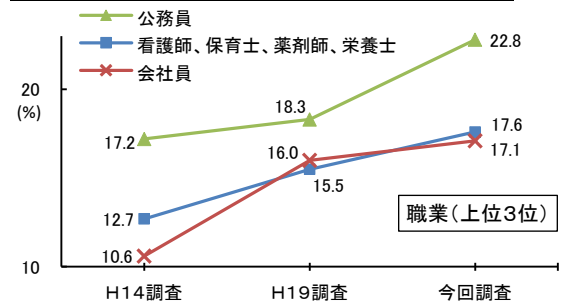
III 学校に行きたくないと思ったことがあるか(不登校意向)



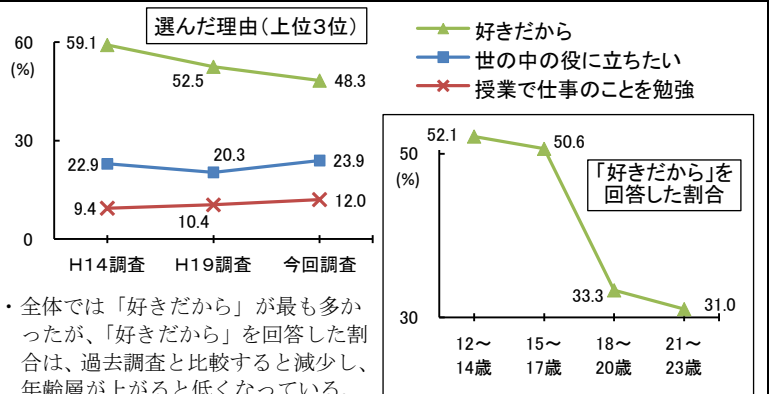
・男女年齢層別に過去調査と比較すると、「いつも思っている」「思ったことがある」の「不登校意向」は減少している。
・「いつも思っている」は、中・高校生共に1年生で割合が高くなっている。

③ 将来像に関する事項

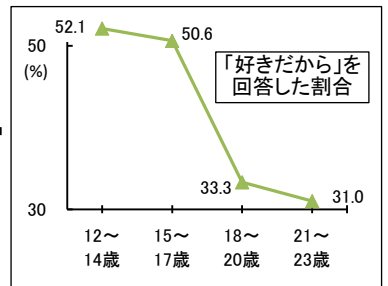
I 将来どんな仕事をしたいか/その仕事を選んだ理由



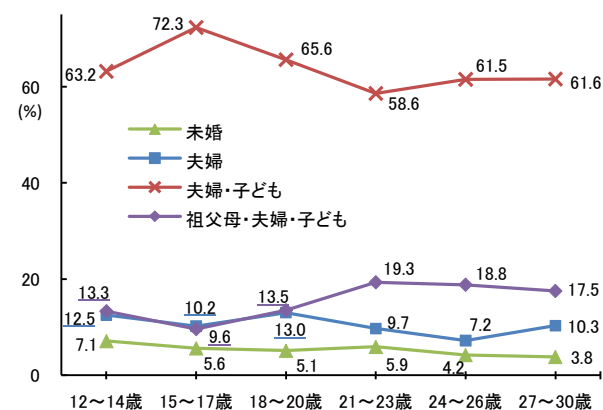
・過去調査と比較すると、今回調査上位3つの職業を希望する割合は増加している。



・全体では「好きだから」が最も多かったが、「好きだから」を回答した割合は、過去調査と比較すると減少し、年齢層が上がると低くなっている。

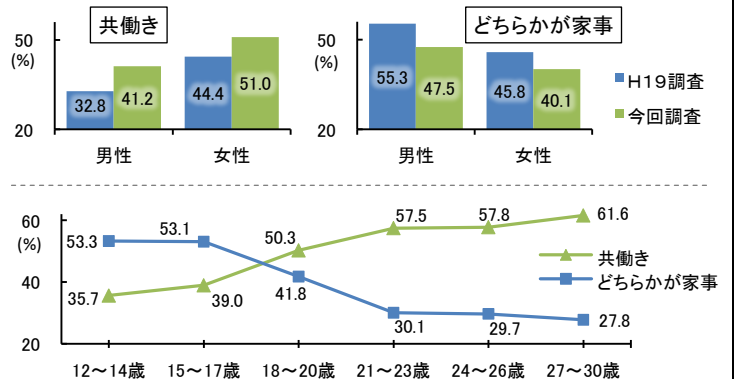


II 将来誰と暮らしたいか【家族構成】



・各年齢層共に「夫婦・子ども」が最も多くなっている。

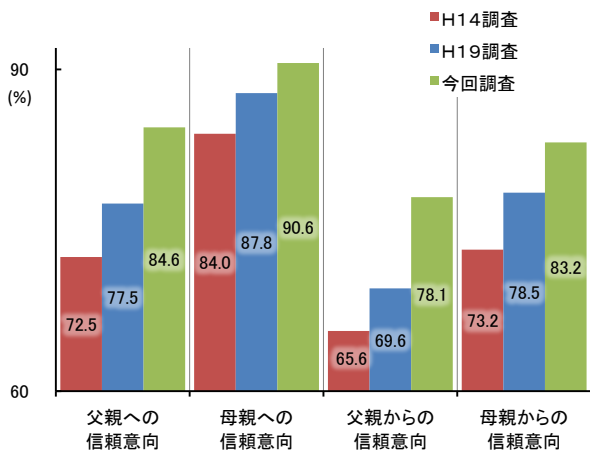
III 将来家事はどうか【職業形態】



・H19調査と比較すると、男女共に「共働き」の割合が増加し、男性より女性が、年齢層が上がると「共働き」と考えている傾向が高くなっている。

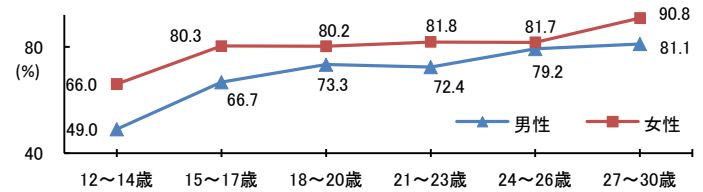
④ 家族・友人関係に関する事項

I 父親・母親を信頼しているか／信頼されているか【信頼意向】



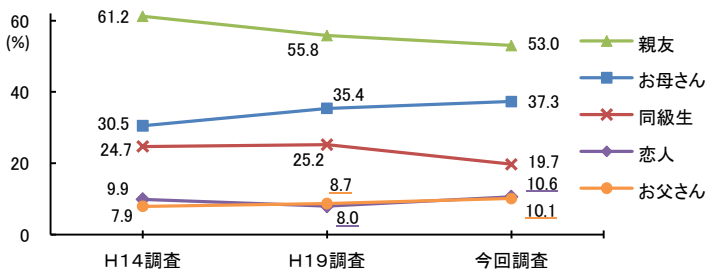
・過去調査と比較すると、各項目において「信頼している（されている）」「どちらかといえば信頼している（されている）」の「信頼意向」は増加している。
 ・父親より母親の方が、信頼している、信頼されている「信頼意向」が高くなっている。

II 今、悩みごとがあるか「ある」と回答した割合



・「ある」と回答した割合は、各年齢層共に女性の方が高く、男女共に年齢層が上がると高くなっている。

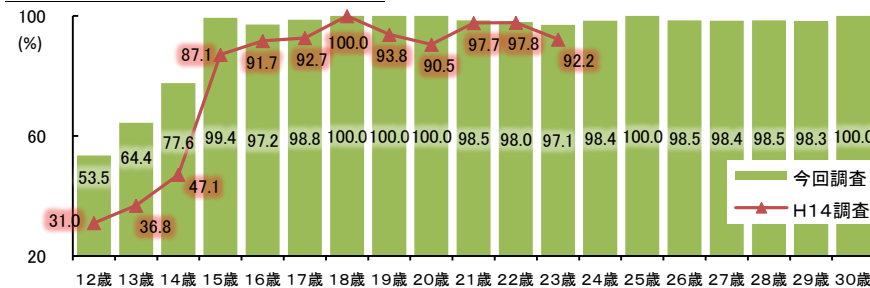
III 悩みごとがあったとき、誰に相談するか



・過去調査と比較すると、上位3位は変わらないが、「親友」はやや減少し、「お母さん」はやや増加している。

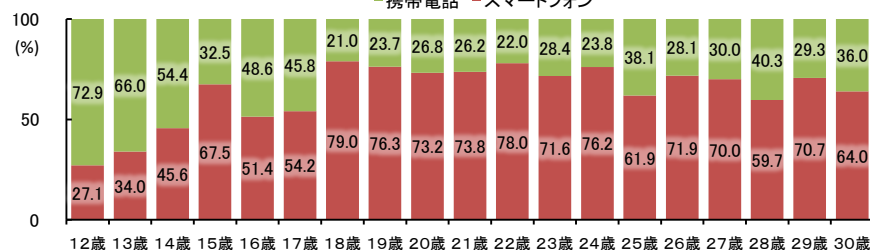
⑤ 携帯電話等の利用実態に関する事項

I 自分の携帯電話・PHSを持っているか



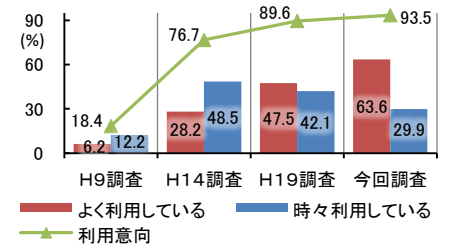
・H14調査と比較すると、中学生層の所有率が大きく増加している。

II スマートフォンを持っているか



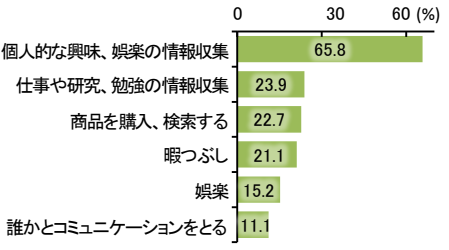
・「自分の携帯電話・PHSを持っている」と回答した中で、高校生以上はスマートフォン所有率が50%を超えている。

III インターネットを利用しているか



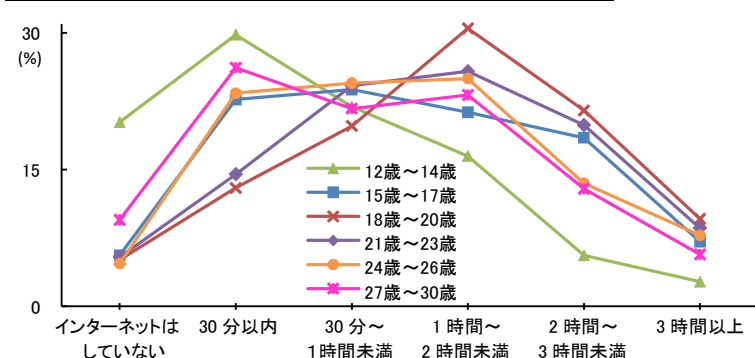
・過去調査と比較すると、「よく利用している」「時々利用している」の「利用意向」は大きく増加している。

IV インターネットを利用する主な目的は何か



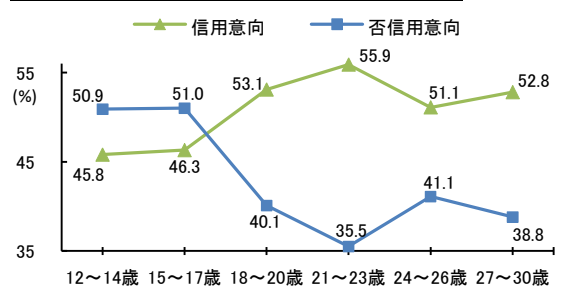
・「個人的な興味、娯楽の情報収集」が最も多く、各年齢層で高い割合となっている。

V 一日のインターネットにアクセスする時間(学校や仕事のある日)



・年齢層別にみると、12歳～14歳、27歳～30歳は「30分以内」、15歳～17歳は「30分～1時間未満」、18歳～26歳は「1～2時間未満」が最も高くなっている。

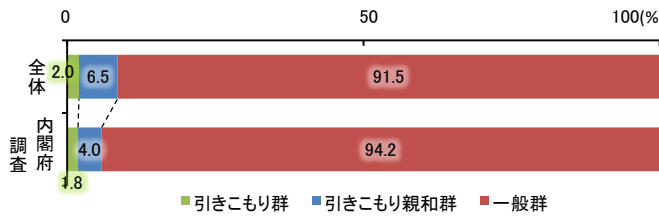
VI インターネットでの情報は信じて良いと思うか



・年齢層別にみると、12歳～17歳までは「あまり信用していない」「信用できない」の「否信用意向」が高く、18歳～30歳までは「信じられる」「ほぼ信じられる」の「信用意向」が高くなっている。

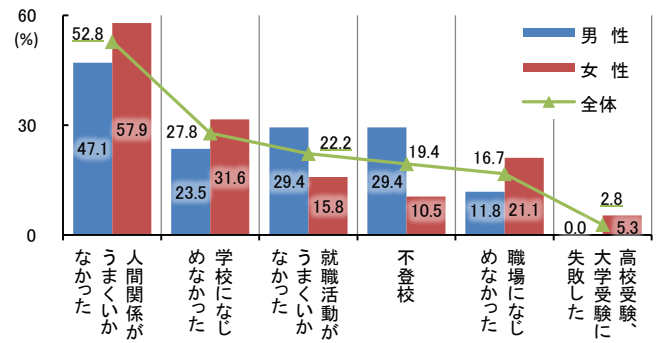
⑥ ひきこもりに関する事項

I 「ひきこもり群」「ひきこもり親和群」「一般群」の割合



- ・「ひきこもり群」「ひきこもり親和群」の割合は、内閣府調査とほぼ同じ割合となっている。
- ・女性の方が「ひきこもり親和群」の割合が高くなっている。

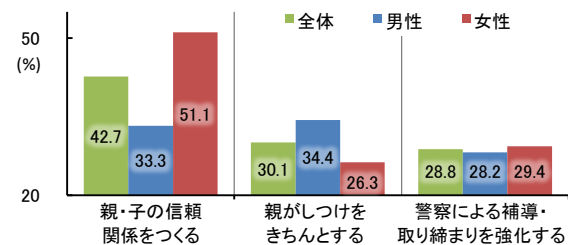
II 外出しない状況になったきっかけは何か(ひきこもり群)



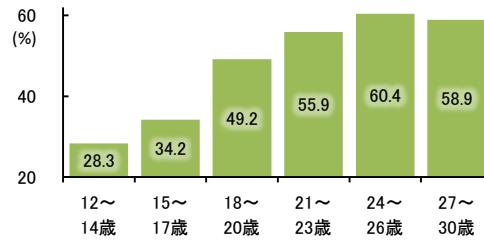
- ・全体では「人間関係がうまくいかなかった」が最も多かった。
- ・男性より女性の方が「人間関係がうまくいかなかった」「学校になじめなかった」の割合が高く、女性より男性の方が「就職活動がうまくいかなかった」「不登校」の割合が高くなっている。

⑦ 青少年非行に関する事項

I 非行をなくすためには何が必要か



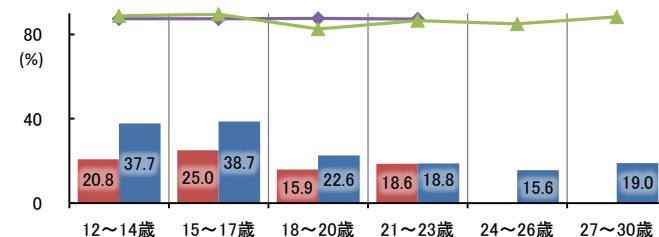
「親・子の信頼関係をつくる」と回答した割合



- ・全体では「親・子の信頼関係をつくる」、男性は「親がしつけをきちんとする」、女性は「親・子の信頼関係をつくる」が最も多かった。
- ・年齢層が上がると、「親・子の信頼関係をつくる」の割合が高くなっている。

⑧ 郷土等に関する事項

I 今住んでいる地域は、安全で安心して暮らせると感じるか

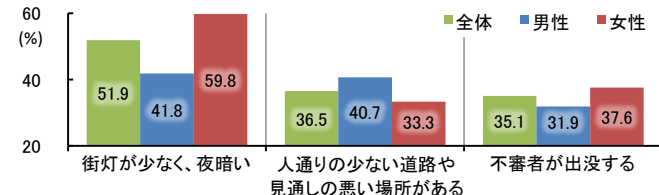


「安心である意向」H19調査との比較

年齢層	今回調査 (%)	H19調査 (%)
12～14歳	88.7	87.3
15～17歳	89.5	87.3
18～20歳	82.5	87.5
21～23歳	86.5	87.2
24～26歳	84.9	-
27～30歳	88.2	-

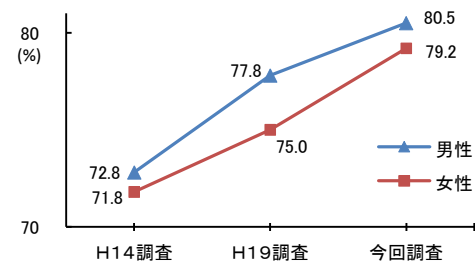
- ・「とても安全で安心」「まあまあ安全で安心」の「安心してある意向」は、H19調査と変わらないが、「とても安全で安心」の割合が高くなっている。

II 安全で安心して暮らせない理由は何か



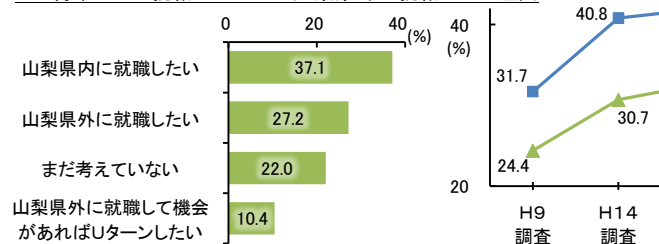
- ・全体では「街灯が少なく、夜暗い」が多かった。男性は「人通りの少ない道路や見通しの悪い場所がある」の割合が高く、女性は「街灯が少なく、夜暗い」「不審者が出没する」の割合が高くなっている。

III 今住んでいる地域に愛着を感じるか

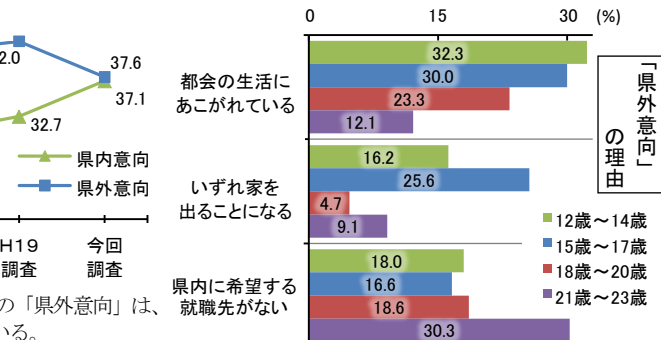


- ・過去調査と比較すると、「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」の「愛着がある意向」は、女性より男性の方が高く、男女共に増加している。

IV 将来どこに就職したいか／山梨県外に就職したい理由

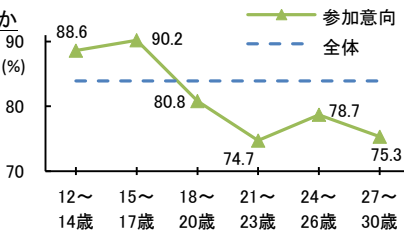
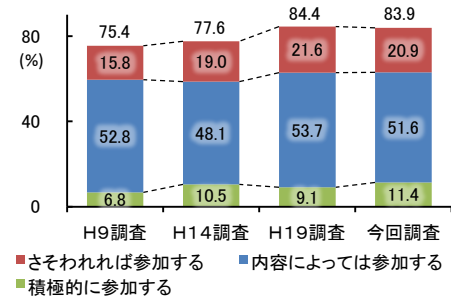


- ・「県内に就職」の「県内意向」と、「県外に就職」「機会があればUターン」の「県外意向」は、過去の調査では「県外意向」が高く、今回調査ではほぼ同じ割合となっている。



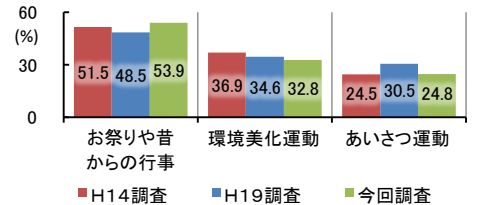
⑨ 社会参加活動に関する事項

I 地域をよくするための活動があれば参加するか



・「積極的に参加」「内容によっては参加」「さそわれれば参加」の「参加意向」は、12歳～17歳の割合が高くなっている。

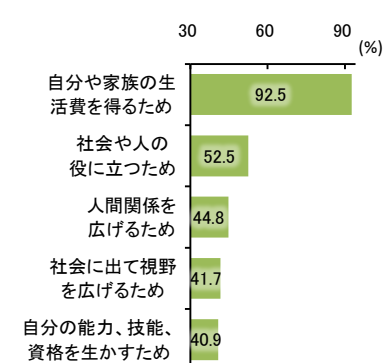
II 地域をよくするためには、どのような活動が大切だと思うか



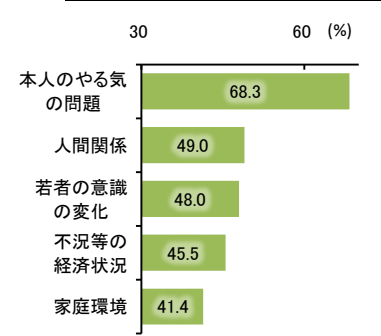
・上位3位まで、過去調査とほぼ同じ割合となっている。

⑩ 職業に関する事項

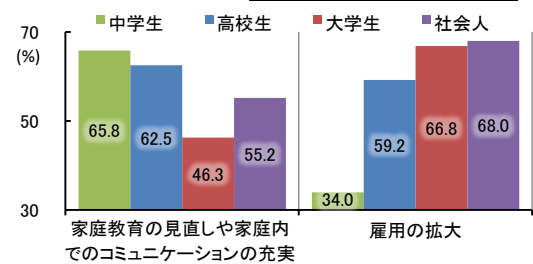
I 社会人が職業を持って働くのはなぜか



II 若年無業者(ニート)になると思われる要因はどこにあると思うか

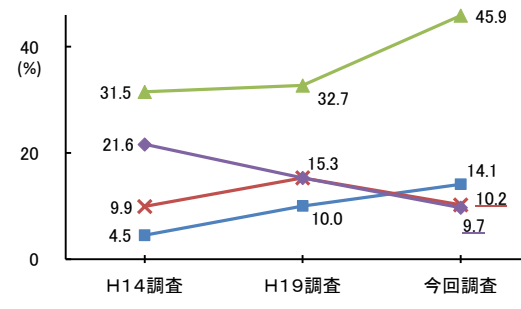
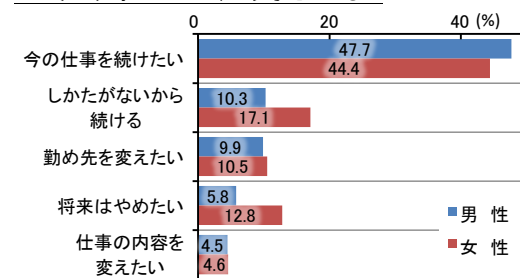


III 若年無業者(ニート)に対する取組として、必要に思うことは何だと思うか



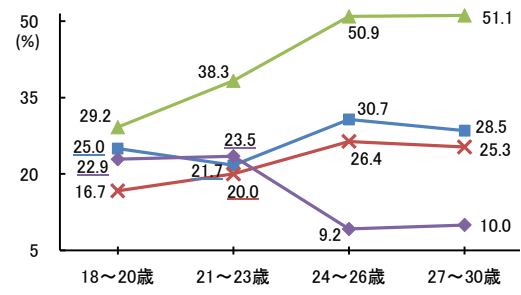
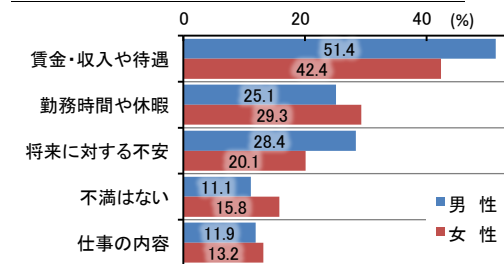
・中学生、高校生は、「家庭教育の見直しや、家庭内でのコミュニケーションの充実」、大学生、社会人は、「雇用の拡大」の割合が高くなっている。

IV 今の仕事について、どう考えているか



・全体では「今の仕事を続けたい」が最も多かった。
・過去調査と比較すると、「今の仕事を続けたい」「しかたがないから続ける」が増加している。

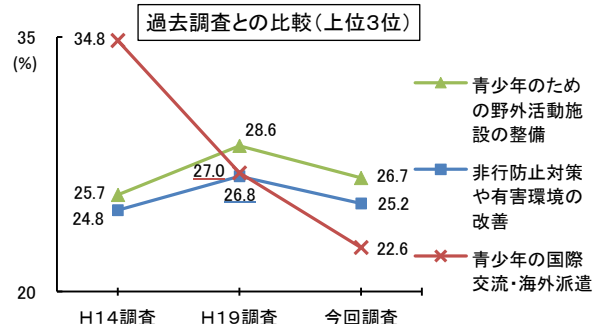
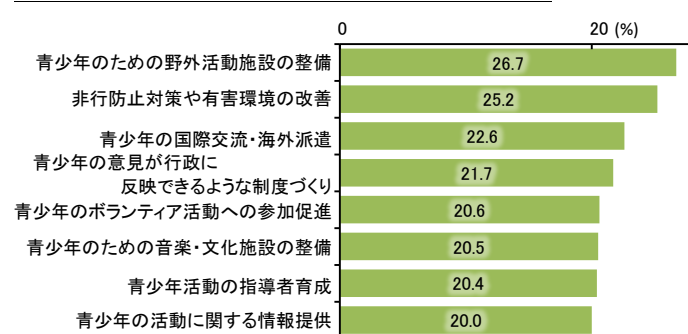
V 今の仕事に対して不満に感じていることは何か



・全体では「賃金・収入の待遇」が最も多く、男性の割合が高くなっている。
・年齢層別に比較すると、「賃金・収入の待遇」「将来に対する不安」が増加している。

⑪ 県政に関する事項

I 青少年健全育成事業で特に力を入れていべきこと何か



・過去調査と比較すると、「国際交流・海外派遣」の割合が減少している。